オモト

Rohdea japonica

オモト

使用部位

使用する季節

冬

作品例

華道家元池坊

小原流
写景盛花様式本位

草月流
勅使河原蒼風

需要スケジュール

1：月1回

◯：使用するが、年により異なる

空欄：使用しない時期

流派	お稽古クラス	1月	2月	
池坊	中級～上級者	◯		
小原流 ※	中級者	◯	◯	
	上級者	◯	◯	
草月流	中級～上級者			
龍生派	初級～上級者			
古流理恩会	上級者	1	1	

※：小原流では必ずとはいえないが、上級者は年1～2回ほど手にする。

龍生派
生花　万年青の一種いけ

古流理恩会
生花
九枚　本手生（真型）（大象観）

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
										○
										○
										1
										○
										1
										1

各流派の求める規格

池坊

生花

使用時期	12～1月
使用品種	大壮観
使用本数（葉）（実）	葉：10枚　実：1個
葉の長さ	50～60ｃｍ
実のサイズ	20ｃｍあれば嬉しい
そのほかポイント	実のない季節に使用することはない
検定試験について	**クラス**：初伝下附後　**時期**：12～1月

立花

使用時期	12～1月
使用本数（葉）（実）	葉：6枚　実：1個
葉の長さ	50ｃｍ位
そのほかポイント	稀に使用することがある 実のない季節に使用することはない

小原流

盛花（色彩様式、写景様式）・琳派調いけばな、瓶花

使用時期	12～2月
使用品種	特に指定はない
使用本数（葉）（実）	**盛花・琳派調いけばな**：葉8枚、実1個 **瓶花**：葉5枚、実1個
葉の長さ	20～60ｃｍ
葉の太さ	大小
実のサイズ	10～15ｃｍ
そのほかポイント	盛花では葉8枚と実1個、瓶花では葉5枚と実1個を一株として基本とする 講習会・花展では2株をいけることもある 多くはないが、正月・花展では根付を使用する場合もある
検定試験について	**花型**：色彩・様式、写景・様式、琳派調いけばな、瓶花 **クラス**：中級～上級者　**時期**：12～2月
花展での使用について	小原流独自に表現方法を持つので、花展ではよく使用される

草月流

花型は特に決まっていない

使用時期	12月
そのほかポイント	使用するが頻度、花型は特に決まっていない

龍生派

古典華（生花）

使用時期	12～1月
使用品種	都の城、大象観
使用本数（葉）（実）	葉：6～12枚　実：1個
葉の長さ	60～70ｃｍ
葉の太さ	太いところで10ｃｍ
実のサイズ	長さ15ｃｍ（茎も含む）
そのほかポイント	適度に曲がりがあるものとないものをともに欲しい お正月に欠かせない花材の一つ
検定試験について	お正月の花として活けられる
花展での使用について	縁起の良い花として婚礼、正月に飾られる 早春の花展

古流理恩会

生花（本手生・中流生・受流生・流生）

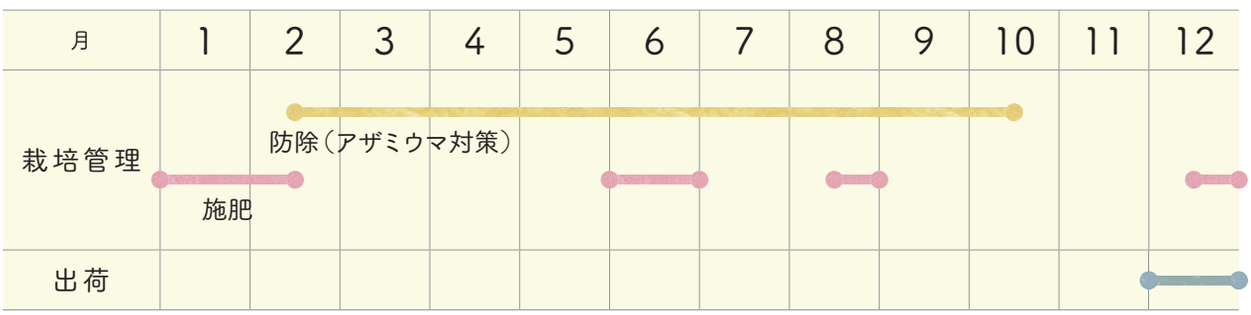
使用時期	12月
使用品種	大象観
使用本数（葉）（実）	葉：15枚　実：2個
葉の長さ	60ｃｍ以上　長いものから短い葉まで必要
葉の太さ	葉先の細くないものが好ましい
実のサイズ	あまり大きくないものが好ましい
そのほかポイント	葉は肉厚、つややかで曲がり、ねじれがあるもの 価格が極端に高価でない
検定試験について	**クラス**：中級～上級　**時期**：12月
花展での使用について	ほとんどは11月以降で、2月頃まで まれに10月（青実）から使用する

生産のポイント

オモトでは、徳島県の生産地の例を紹介します。

生産スケジュール

徳島県の例



- 潅水は自然潅水のみ。
- 防除は、ずっと行うが、夏（４～８月）は頻度が高く10日に1回。
- 施肥は、収穫後、梅雨時期、旧盆後に行っている。
- 圃場の遮光は葉焼け防止に必須。約７割程度の遮光。

オモトは品種により養成、収穫、改植の期間が異なる

タイソウカン

1年目：養成期間
2年目：養成期間…葉は3枚程度展開する
3～4年目：収穫期間
改植：株が弱ってくるため、5～7年の間に行う

ミヤコノジョウ

1年目：養成期間
2年目以降：収穫期間…毎年葉が3～5枚展開する（収穫はその内1～3枚）
改植：株が弱ってくる10年前後で行う

実用の品種

1年目：養成期間
3年目以降：収穫期間
改植：7～10年に行う
1株から収穫できる実の数：1個／年

生産のポイント

圃場の様子

● 遮光ネットを使ったハウス

高さ170cmのパイプと遮光ネットで作ったハウスで栽培している。葉と実で圃場を分けている。

葉を生産している圃場。全面がシェードに覆われ、葉焼け防止の遮光が高く施されている。

タイソウカンの圃場

ミヤコノジョウの圃場

実の生産圃場。実は葉の育成を促すために圃場の遮光は低く、圃場の側面は開けている。

見学した葉の圃場では、株の間隔は25cm程度、横は4株、縦は畝の長さに合わせて植えている。

生産のポイント

収穫について

● 葉はすべて収穫せずに、2枚は残して収穫する

葉は手で収穫する。1株に3～5枚出ている葉を2枚は残し、残りを収穫する。ただし、傷があるなど出荷に適さないものはこの時点で収穫しない。

その他 収穫時期について

- 葉も実も11月10日～20日のほぼ10日間にすべての収穫作業を行う。実は少し色づいた状態で収穫し、収穫後の12月後半には色付いていく（この生産地では実を農協で選別するため、実を優先して収穫している）。
- 出荷直前まで水に浸けて保管。年末に使用するにはこのタイミングが最適で、これより早く作業を行うと日持ちしない。
- 年末以外の春～秋は注文があれば対応する。
- 9月のお彼岸以降から1か月間は、注文対応で練習用を出荷することもある。この場合は青い実になる。その年の実の生産量によって変動する。出荷の1か月前に部会で話し合っている。出荷の1か月前に部会で決定。
- 年末用の出荷は、注文分、セリ分ともに11月25日頃から12月まで。

生産のポイント

収穫後の処理について

【作業例】

収穫後の処理 ❶

収穫後、水を張ったプールで水あげし、水があがったら機械を使って葉全体を洗浄する。

収穫後の処理 ❷

洗浄したものを長さで選別する。選別されたオモトの葉（写真右）。

収穫後の処理 ❸

葉組みを行い、1杯に組む。組んだ形のまま、水につけて保管し、出荷するタイミングで箱詰めを行う。

● 選別作業について

葉の選別は、長さを測る板を利用して目視で行う。写真はミヤコノジョウの場合。7規格に分類する。

出荷のポイント

オモトの出荷には、葉組みは不可欠。長さの異なる葉を組み合わせて組んでいます。

出荷のポイント

葉組みについて

【作業例】

徳島県では選別作業の流れに組み込み、葉組みを行なっています。

葉組み作業 ❶

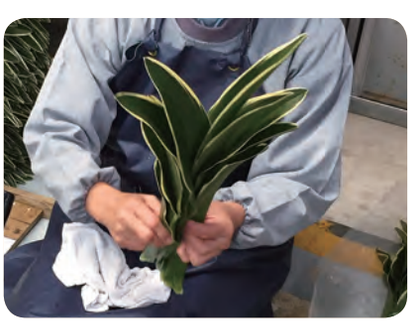
長さで分けた（87ページ）葉を葉組みする。長いものから短いものを5枚組んでいく。

葉組み作業 ❷

❶を返し、反対側5枚を❶同様に組む。

葉組み作業 ❸

根元側を揃える。根元側は吸水を考え、やや余裕を持った組み方をする。



葉組み作業 ❹

産地名入りの結束テープで2か所止める。このとき、やや余裕を持って留めることで、葉に傷がつかない。

出荷のポイント

実の選別作業について

【作業例】

実は収穫後、生産者が自宅で一度選別（秀・優）をし、
農協の集荷所に持ち込み、サイズの選別作業を行なっています。

実の選別作業 ❶

生産者から秀・優の選別がされた実が農協の集荷所に届く。

実の選別作業 ❷

サイズの選別は、機械を使用し重量選別をしている。

実の選別作業 ❸

サイズで選別した実を10個ずつ袋詰めする。

出荷のポイント

出荷規格について

基本は、葉10枚組み＋実1個で1杯。
東京の注文のみ特別仕様で葉15枚＋実2個で1杯とします。

※15枚組みは東京のみで、注文数量に合わせて葉組みを行い対応する生産者も事前に決めている。

一般的な1杯
（葉10枚組み）。

葉15枚組みでの1杯。

出荷規格

- 葉のサイズ：約 56cm ～ 35cm まで（ミヤコノジョウ 10枚組み）
  約 60cm ～ 35cm まで（ミヤコノジョウ 15枚組み）
  約 65cm ～ 40cm まで（タイソウカン）
- 規格：特級、1級、2級
  病害虫の被害があるものは出荷しない

出荷のポイント

出荷ロット、荷姿について

出荷ロットは、実を1個、葉を10枚組みしたものを20セット（つまり20杯）。
15枚組みの場合では10セット（10杯）。

葉が傷まないように注意し生産者が箱詰めを行なっている。集荷所では、状態のチェック（検品）をした上で、実2袋を入れて封をしている。

＊オモトの品種名について、漢字表記が各流派によって異なるため、今回のマニュアルではカタカナ表記で統一しております。ミヤコノジョウ：都の城、タイソウカン：大宗冠・大相観・大草冠・大象観など。（P71−72の流派からの情報ページについては、各流派の表記に準じています。）

オモトの葉の長さ

オモトの10枚組み、15枚組みのそれぞれの長さのイメージです。
葉の陰陽を考慮して並べていないため、あくまでもイメージとしてご覧ください。

● 10枚で葉組みした葉の長さのイメージ

ミヤコノジョウ

タイソウカン

● 15枚で葉組みした葉の長さのイメージ

ミヤコノジョウ

オモトの葉の長さについて

長い葉の茎元を切り詰めて長さ調整をすることはない。短いものは短い葉を使う。茎元は収穫時、根元から切り取った状態が重要。